

難民救援情報誌

Trial & Error

トリアル・アンド・エラー

—— 試 行 錯 誤 ——



- タイ・カンボジア国境情勢
- 政治と救援

政治と救援

タイ・カンボジア国境情勢

三派連合成立をめぐる

竹内俊之

先日 JVC の国境チームは WFP の人数調査を手伝うためノンチャン難民村を訪れた。

数えきれない女性や子供達が炎天下の地面に列をなして座り込み、食料配給を待っている。一般の人々とゲリラを区別するため、配給券は婦女子（身長120cm以上）のみに配られる。WFPはクメール人が独自に作っている行政組織とKPRLF（後述）の兵隊の協力を得て、仕事を進めようとするのだが思うように進まない。強い日ざしの中を朝から並んで待っている子供達の何人かは、照りつける直射日光に耐えきれず大人にかかえられるようにして列から離れていく。

●戦闘に備えて、塹壕掘りが始まる

雨期が終わりに近づく10月。難民村の人々は緊張し始める。冷えてしまった国際世論の関心を引くため、タイ政府が毎年のように発表する「ベトナム乾期攻勢」の情報とは違った、もっと切迫したものにつき動かされて人々は塹壕を掘り始める。

80年6月のノンマクムーン・ノンチャン両難民村を巻き込んだベトナム軍タイ領侵攻を始めとして昨年8月から今年5月80年6月のノンマクムーン、ノンチャン、両難民村のベトナム軍タイ領侵攻を始めとして、昨年8月から今年の5月まで続いたベトナム、ヘンサムリン連合軍の主にクメールルージュ（ポルポト派）を対象とした乾期攻勢（ソクサン、カオディン等を一時占領、後に双方とも引き上げ）にいたるまで、日本では報道されなくとも、大小の紛争は続けられて来た。しかし最近では以前までと若干違っているようだ。今年6月22日マレーシアのクアラランプールにて署名された反ベトナム三派連合政府に対する期待と、またそれに対し、ベトナムがどのように反応するかという不安が入り乱れている。

●三派連合成立以前の難民村

現在国境線上に滞留するカンボジア難民は、それぞれが自己の属する政治派閥ごとに別れて村を作っ

ている。当初は、クメールルージュ以外は、一括して、クメールセリと呼ばれる種々雑多な集団が競合連携を繰り返し、元カンボジア首相ソンサンが、ひきいるKPRLF（カンブチア人民民族解放戦線）と元カンボジア国家元首シアヌークの組織するFUNCINPEC（独立、中立、平和、協調のカンボジアの為の民族統一戦線）の傘下に統合された。その間の勢力争いはブラックマーケットの利権もからみ凄絶なものであったという。

●ポルポト政権下のいまわしい記憶

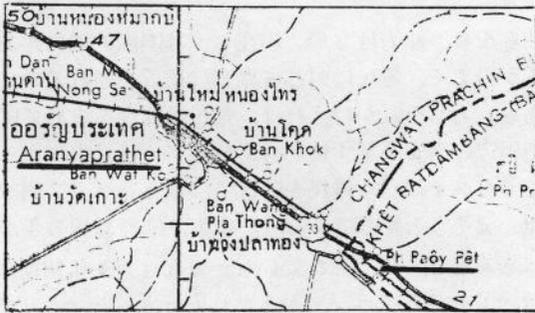
クメールルージュ以外の多くの人間にとっては、クメールルージュは、今だにいまわしい記憶がついてまわる嫌悪の対象でしかない。これは、一般的に言えることではあるが、特にソンサン派に強いように思われる。ソンサンは10月8日のワシントンでのインタビューで「クメール人民は二者択一を迫られるならルージュよりはヘンサムリンを選ぶだろう」（ロイター伝）、とまで言い切っている。

●クメールルージュの村 — 国づくりへの情熱

プノムチャットの村の行政の仕事をしているH氏は次の様に語った。「75年以來の政治の中で私達は多くの間違いを犯したかもしれない。結局共産主義はカンボジアには合わなかった。人々は普通に生活すれば食べていくことができた。カンボジアはもともと豊かだったのだ」そして三派連合結成以後の変化については、「以前は考えられなかった事だが、今ではノンチャンの人間がこの村に来て数日滞在した

(左)'82年7月7日、カオイダン難民キャンプを訪れたシアヌーク元カンボジア国家元首
(右)シアヌークを歓迎する3万人のカンボジア難民
撮影 野中章弘





りするようになった。」と語っている。真偽の程は確認しようがないが、あったとしても少数ではないかと思われる。クメールルージュの村を実際に回って感じるの、人々の国をつくっていかうとする情熱である。現在では自ら共産主義と訣別したと言っばばからぬ彼らに、新しく身を寄せるべき原理があるとはまだ考えにくい。しかし、他派の人々が持っていないもの——ベトナム軍撤退後の国づくりにおける展望をクメールルージュの人々の一部は持ち始めている。それは、かつてシアヌークが推し進めていた非同盟運動に幾分通じるもののようにも思われる。

●シアヌーク派への期待

一方、かつて一番の弱小集団だったシアヌーク派（ムリナカ）は7月のシアヌーク、カオイダンの難民収容所訪問を機に、一挙に活性化した。8月初旬には同収容所、約4万人のうち1万5千人が自主的送還を申し出、その内2117名がシアヌーク派の拠点のひとつ、チョンチョムへ送還された。1ヶ月後の再開後、現在まで4000～5000人が帰り現時点で1万4千人までふくれあがっている。シアヌークに期待をかけるのはクメールの人々ばかりではなく、カンボジア問題の政治的解決のカギを握る人物として捉えている人々も少なくない。

●三派連合を取り巻く状況

今日の三派連合結成にこぎつけるまでタイを中心とするASEAN 諸国や中国の努力は、相当なものだ



たけうち としゆき
'82年2月より国境地
域での物資輸送プロ
ジェクトに参加



国境の密林をゆく、ク
メールルージュの兵士
撮影 野中章弘

った。もちろん民族自決または、外国勢力の国外退去等の国連決議の大義ばかりではなく各国の国家利益が絡んでいるのは当然であり、それは三派連合結成の準備段階から現在に至るまで各国の発言の微妙なニュアンスの違いに表われている。しかしそれは何も外部だけに限らず当事者である三派閥間にもあって特にソンサンは、クメールルージュに対しその嫌悪感を露骨に示して来た。指導的地位にある人物にしてこうなのだから民衆レベルでは連合したといってもピンと来ないのは仕方がないのかも知れない。三派連合はベトナム軍のカンボジアからの撤退を大目標とし、それぞれ平等の原則に立ち、三者のコンセンサスで進めていくのだが、各派の独自性、理想、政治哲学、自前の組織（軍隊を含む）は存続する。しかしその枠組みは、国連の議席を持つ民主カンブチア（クメールルージュ）の合法性の中に制限される。言い換えると民主カンブチアという国連議席の名札の前に座る人間を変えたというだけで、現場では今まで通り互いに何のつながりもなく人々は生活している。

どのようになろうとも流動的な政治状況は、カンボジアの民衆にこれからも多くの困難を強いるだろう。しかしそれに立ち向かい解決するのは彼ら以外の何者でもないのだ。

政治と救援

田島 誠

「政治と救援」というテーマには2つの意味あいが含まれている。

一つは、〈救援の果たす政治的な役割〉でありもう一つは〈救援の立ち入れない政治領域の限界〉である。

UNHCR（国連難民高等弁務官）を中心とする難民に対する国際的救援活動は「純粋に人道主義的立場に立ったものである」とされながらも、一定の〈政治的役割〉を持っているし、その限界を意識しつつ組織されている。

この救援にからむ2つの政治的意味が正しく認識されなければ、人道主義的救援活動も政治の「武器」となり得る。

●「政治」によって生みだされる難民

近年顕著にみられる大量難民流出の背景をつぶさに観察してみると、必ずといっていい程戦争、革命、大国の介入、干渉などの現実に行きつく。勿論それ以外、干ばつ、政権の腐敗、国家経営の行き詰まり、食糧不足など様々な要因が入り乱れて難民の流出原因を形造っている。

カンボジア難民の場合でも、流出の背景にはベトナム戦争・革命・ベトナムの侵攻・占領など政治的問題がからんでいる。その結果生み出された難民村（推定総人口約30万）に援助するということは、タイ・カンボジア国境上にあるという位置からいっても、政治的に非常に微妙な問題を孕んでいる。

●〈国際的救援活動〉が難民たちの命を支える

現在国境上30万のカンボジア難民の命を支えているのは、タイ側からの食糧援助を初めとする国際救援の手である。もしこれらの援助が全くなくなってしまったとしたらどうなるだろうか。

人口500万人のタイにとって、30万人のカンボジア人の存在は決して小さいものではなく、その命綱である国際救援を中止されてしまったなら、タイに

彼らを養う能力はない。現在タイは国際的協力があるからこそ、難民に対して寛容な措置をとれるのである。もしそれが絶えれば、難民は食糧を求めて国境周辺の治安を乱す怖れもあり、タイは武力によってでもタイ領から難民をできるだけカンボジア側へ押し戻そうとするであろう。事実、国際救援の手がほとんどさし延べられていなかった1979年初期には、多くのカンボジア人達が戦火と飢えとマラリアの待つカンボジアの森へ強制送還され、命を奪われていった。

この様な難民の「強制送還」をさせないことは国際的救援活動の第一の目標である。

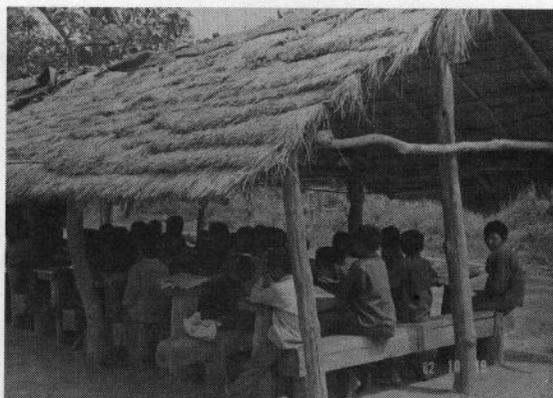
●難民の解消を目指して

難民を援助することは、単に難民の命を救うのみならず、彼らが望むならそこに留まることをも保障している。ここで援助する側が慎重にならなければならないのは「難民の解消」を目指すはずの援助がいつの間にか難民を難民である状態に引きとめたり逆に生み出す原因になっていないかということである。

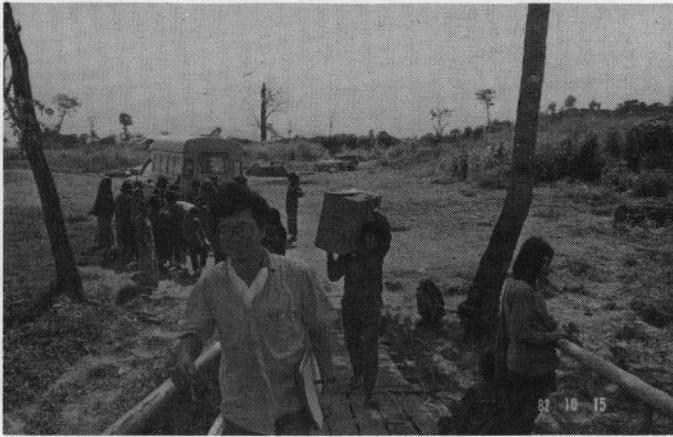
ARC（American Refugee Committee）のある職員は、ノンサメット難民村で医療活動に従事するかたわら、患者など多数の難民をインタビューした結果、カンボジア難民が国境地帯に留まって母国へ帰らないのには主に下記の3つの理由があるとしている。

- ①戦闘などがあってカンボジア国内は、治安が不安定だから。
- ②難民村はカンボジア国内に比べ食糧事情がよい。
- ③反ベトナム感情から（ベトナム人がいる限り国内には戻りたくない）

こうしてみると、カンボジア難民の解消は、
④カンボジア国内の食糧事情の改善



コクタハン難民村にある小学校



タブリック難民村への教育物資を運ぶJVC国境チームのボランティア

⑧カンボジア国内の治安の回復

⑨カンボジアのことはカンボジア人自身が決定できるという自決権の回復

という、3つの要素が必要であることがわかる。

●＜国際的救援活動＞の特色と政治的境界

①に対して＜国際的救援活動＞の果たす意義は大きい。現在UNHCRを筆頭に多くの救援団体がカンボジア国内の復興に携わっている。その中には西側諸国で、ベトナムやカンボジア(ヘンサムリン政権)とも国交のない国の民間団体(NGO)が数多く入っている。こういったイデオロギーの枠組みを越えて問題の解決に本質的に必要とされている事柄に着手できるのは、＜国際的救援活動＞＜政府機関でなく民間を主体とした活動＞でしかあり得ない。

⑧⑨に対しては＜国際的救援活動＞の果たせる役割は少ない。いわゆるこれが「限界」である。もし救援団体自体が、ベトナム軍のカンボジア国内からの撤退を表でだてうたったなら、当然カンボジア国内での救援活動は許されるはずもなく、イデオロギーを越えてすべきはずの援助の実現が不可能になってしまう。

そうなっては＜援助＞も、国家対国家、イデオロギー対イデオロギーの勢力地図争いを片側だけから支援することに留まり、民意を反映した難民の解消には貢献できない。

●政治にインパクトを与える＜国際的救援活動＞

しかし、このことに関して＜国際的救援活動＞が全く無力であるというわけでもない。いや、むしろ直接・最終的政治的解決の場にこそ登場しないが、この救援活動こそ最終的な裁断が平和的に行われる様な下準備をしているのである。

周知の如く、国家を持たないPLO(パレスチナ解

放機構)が今日国際的政治勢力となり得ているのも国連で国際的な認知を受けている(具体的には議席を有している)からであり、そしてそれをとり巻くパレスチナ難民の存在を支えているのは、UNRWA(国連パレスチナ難民救済事業機関)などを中心とする＜国際的救援活動＞に他ならない。

勿論国連は、国連自体の利害からPLOを認めているわけでも、パレスチナ難民を援助しているわけでもない。国家間の対立が最高度に達して、解決が困難である時、超国家組織である国連がその調整・調停を、そして国連機関を中心とする＜国際的救援活動＞が、解決までなおざりにされる多くの人々の命と権利を保障してきたのである。

人民を失くした国家(政治勢力)はあり得ない。国際社会で＜力の論理＞がまかり通り、強い者が弱い者を滅して行くという現象に歯止めをかけ、＜弱者の人権＞を擁護し、武力等によらず平和的な手段をもって紛争の解決に当たるとするのが国連の目標であり、＜国際的救援活動＞はその「政治的」一翼をになっているのである。

たじま まこと; 80年6月より82年2月までタイ・カンボジア国境でのJVCの物質輸送やCARE(アメリカの団体)の物資配給に携わる。現東京事務所所長代理

ラオス難民のためいき

大野直樹

『おらタイへ行くだ。』

ある日ラオス人農民の1人が言う。

『おめえ本気か？ なんでだ？』

と、別の1人が尋ねる。タイへ行く、とはすなわち難民となることである。

『おらもよくわかんねえだが、ここに居たら乱暴な兵隊達が来て、皆、殺されるんだと村のもんが言っとっただ。皆も行くだて、おめえもおら達と行かねえか？』

『んだな、皆が行くならおらも嫁と鶏さ連れて行くだ。』

こうして彼らは国境を越え、タイの難民キャンプに収容される。

『さっきUN（国連）の外人さんが第三国へ行きたい人は来てくれて言ってたけんど、それ何だ。』

『どっかの村と違うべか。』

それから数ヶ月がたち、キャンプ生活にも慣れ、第三国の意味もわかるようになる。

『おめえどこの国行くだ？』

『おらアメリカだ。おらの友達もアメリカさ行くだ。』

『んじゃ、おらもアメリカだ。』

『おめえらは若いけんど、おらは年だし、知らん国行っても言葉も何もわかんねえし……ただアメリカさ行った息子には会いてえが……仕方あんめ、おらは国に帰ろうと思うだ。』

『おらも本当は国さけえりてえなあ。父ちゃん母ちゃんさ会いてえなあ。もう5年も会ってねえだ。』

『だども、けえったら殺されるべ。』

『おらもそう思っとっただが、先月国へけえったもの手紙読んだら元気にしとるようだで、おら決めただ。カァちゃんに話してみるだ。』

さて、妻達は――。

『うちの亭主、キャンプに来てやっど酒癖が直ったのにけえったら又癖が始まると思うとな。』

『あんなんかまだましだ。おらなんか、このキャンプで結婚して子供2人と腹にもう1人いるだが国にけえったら亭主め、前の嫁と子供4人が待つとるだよ。』

『苦勞するだなあ。でもおら又村で百姓してえ。』

『それにこのキャンプももうすぐ閉るそうだ。』

東北タイの大都市ウボン、そこにあるラオス難民キャンプで私が活動を始めて早2年がたつ。こども今年12月には閉鎖を予定されているのである。

ラオス難民と一口に言っても種々のケースがある。旧政府軍関係者、華僑等、政治的経済的理由によって難民となった人々は第三国へ定住していく。また、山岳民族の場合も事情は異なるが難民の多くは前記の会話のようなラオス人の農民達であり、彼らは何がどうなっているのかわからぬまま、タイへと移って来た。彼らにとって、東北タイは歴史的にも親戚のような関係であり、言葉もほとんど変わらない。ちょっと引越して来たような気軽さもあったのだろう。そして第三国定住ブームが始まり、定住先の国についてもよく知らぬまま行ってしまった者も少なくない。未知の世界へ――なぜ？ 現在、彼らの中には『本国自主送還』の気運が高まっている。やはり、故国はよいものだ、もしそこが平和で、自由であればなおのことである。

私は今、痛切に願う。この素朴な民族が、平和な家族が、いつの日か再び一つになることを。

おおの なおき；80年11月よりヴボンで日本語教師として活動。現在も、ウボンの石けん学校で活動中。今年ラオス難民の女性と婚約。

☆

タイ政府の発表では、12月15日にウボンキャンプが閉鎖される。11月27日の朝から、ナポーキャンプへの移動が始まった。この日は約400人が出発した。しかし、かなりの人がナポー行きを拒否し、国境の難民村へ逃げたと言う。難民村では、タイ人の所で農業や木材の伐採を手伝ったりして収入を得ている。村で今一番の問題は、食糧不足と病気である。最近1カ月程姿を見せなかった織物学校のある生徒は、この難民村へ行っていたらしい。食べ物がなくて帰って来たと言う。彼女は12月7日にナポーへ行く。



UNHCRニュース

● 国連難民高等弁務官駐日事務所提供 ●

ルワンダ難民、 緊急援助アピール

ルワンダ難民の緊急状況が報道され、全世界の注目が集まっている。UNHCRは、10月26日付、各国政府、国民に向けて緊急援助のアピールを行った。以下はルワンダ難民に対する救援状況である。

UNHCRはルワンダ政府、ルワンダ赤十字と協力し、救援活動を開始した。ルワンダ赤十字が中心にユニセフ、OXFAM（英国民間救援団体）、国境なき医療団（仏国民間救援団体）スイス政府などが、医療、衛生、給水等の援助を行なっている。

WFP（世界食糧計画）とカトリック救済事業団は食糧供給を行っている。しかし、大雨が続いている為、救援は停滞しているのが実状だ。

UNHCRは、11月11日付、緊急募金から100万ドル（約2億7000万円）相当の毛布、医療などの物資をルワンダの首都キガリから空輸した。

今後必要とされる援助物資

WFPの供給が届く迄の食料

143万5000ドル（約3億5875万円）

家庭用品、毛布、調理用燃料、石けん

43万4800ドル（約1億870万円）

テント、伝統的住宅の資材

90万4000ドル（約2億2600万円）

給水車、簡易貯水施設の設置

62万ドル（約1億5500万円）

その他医療、衛生の為20万5000ドルなど

現在UNHCRは、ウガンダ、ルワンダ両政府と話し合いを進めているが、ウガンダ南部に残留しているルワンダ難民が、国境に向かって逃げ帰る動きが見られるという。さらにウガンダに移民として居住している、ルワンダ人100万人が、これらの難民に続く恐れがあり、事態は予断を許さない。

11月25日現在のUNHCRのルワンダ緊急募金

210件 296万円

募金の問い合わせ UNHCR駐日事務所

TEL 475-1616 郵便口座 東京3-59734



ルワンダ難民、北東部のカニーニャ、キャンプにて

世界の“難民情報”

・メキシコ

10月初旬、6000人のグアテマラ難民がメキシコ南部に流入した。現在メキシコにいるグアテマラ難民の総数は、22,000人。新たに流入した難民の健康状態は悪く、マラリアや肝炎の患者が多数いる。メキシコ大学医学部は近々、同地域に医療チームを送る予定。

・コロンビア

80人のミスキト族ニカラグア難民が到着した。UNHCRは彼らに対する救援の可能性を探っている。

・ソマリア

中華人民共和国の人民水力工学技術団が、ソマリア政府が新たに提供したヒラン地区の農地1000ヘクタールの灌漑プロジェクトの調査を行うことになった。

・ベトナムのボートピープル

1982年9月、近隣諸国に流入したボートピープルは1590人。1978年2月以来の最少の流入数である。同月、3250人のボートピープルが第三国へ再定住した。9月30日付、東南アジア諸国におけるボートピープルの総数は、40,946人。

・バングラディッシュ

10月初旬から中旬にかけて、3096人のビハリ族難民が、バングラディッシュからパキスタンへ帰国した。残りの1500人は11月帰還する予定である。

JVCプロジェクト 1982年11月20日現在

■出資者 □担当者 ※リーダー

ウボン (ラオスキャンプ)

(12月15日に閉鎖される。ただし、本国帰還センターと、一時収容施設が残される。)

- 自動車整備学校 ■UNHCR, 一般寄付 □大野直樹※, 寺島正一, 小田中勝己, 自動車整備科 (98名), 発電機科 (12名) に加え, 今月から, 給水ポンプ科 (12名) を新設。タービンポンプ, 汲み上げ式ポンプ, ピストンポンプなどを扱っている。
- 石けん学校 ■UNHCR □磯辺元秀
先月から製作していた教科書が刷り上がった。イラスト入りで, 日本語で書かれたものを, 日本語学校の生徒でもあったラオス人アシスタントがラオス語に訳した。苛性ソーダのもの, Lye (灰汁) のものと2冊。授業に使うだけでなく, 卒業生にも配布する予定。苛性ソーダ製法の石けんは, 今後月1万個を目標に生産し, Save the Childrenを通じてキャンプ内に配給する。
- 図書館 ■UNHCR, 一般寄付 □松本一仁
図書館内外の整備に努めた。一日の利用者数は平均40~50人。
- 織物学校 ■裏千家 □金村悦江
約40名の生徒のほとんどが本国帰還希望者で, キャンプの動きに敏感になっており, そのためか欠席者が目立つ。10月15日, 5回目の展示即売会を行なった。22日には恒例になったキャンプ内のお坊さんを招待して, 将来のことについて各自考えるようにお説教をしてもらった。
10月中旬から飼いはじめたかいこが卵からかえって幼虫となった。数週間でまゆができ, 紡ぐ指導ができるようになる。また, 6月の終了生に染色の指導を行なった。織物工房では, 10人の終了生がハンディクラフトの製作に励んでいる。

給水プロジェクト (東北タイ農村での井戸掘り, 貯水タンクづくり)

■モラロジー □木村信夫※, スラボン, ルーチャイ, 佐藤正喜

今月は1ヶ村(バンワルアット郡)で浅井戸3本を完成させた。2本を新しく掘り, 1本は改修のみである。完了するまでにかかった日数は8日間で, 驚くべき早さで仕事が進んだ。その主な理由は, 村の人々の熱意がこれまでになく強かったためである。井戸の維持管理についてのミーティングを通して, 村の人々がどうすればよいのかを認識するにつれて, 他の井戸も自分たちで直してみようという声があがった。村の人々の自発的な積極性が, このプロジェクトの原動力である。

農村開発プロジェクト □山本敏幸, 他のべ10名

タイのラムカムヘン大学の農村開発ボランティア活動に参加し, 図書館や小規模ダム建設を手伝う予定。実施 11/20~12/10, 12/11~12/30の2地域

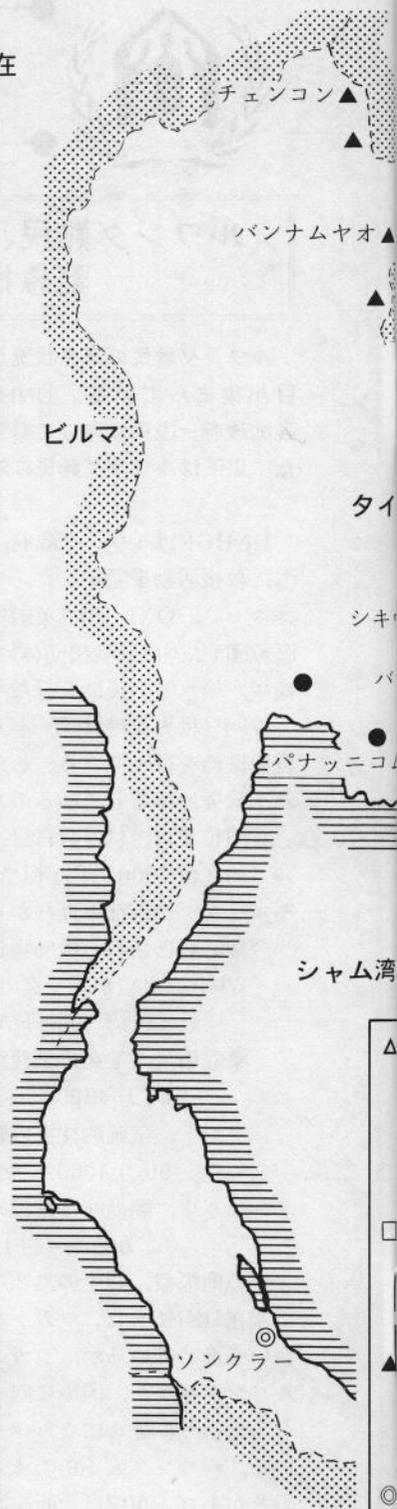
カオイダ (カンボジア人キャンプ)

■UNHCR・一般寄付 □入江智幸※ トンディ, 嶋 紀晶, 鴉田三芳, 佐藤和美

- 自動車整備学校 入学→理論 (2週間) →牛車, 自動車 (1週間) →電気回路 (2週間) →中間試験 (1週間) →単車 (2週間) →エンジン (2週間) →卒業試験 (1週間) →卒業, 合計11週間が1コースである。
上級コースは10月11日より, 6月コースの卒業生の女性2人を加えて, 24名で開校。上級コースの進級希望者に受け入れが追いつかない状態。授業の充実のため, 今後は, より効果的なカリキュラムの再編を考えている。日本での研修から帰ったトンディ氏の提案をもとに, クメール人教師たちと討論している。

タケオ (カンボジア国内)

- 井戸掘り ■OXFAM, LWS □養田健一※





キャンプ人口 '82.10.31現在

カンボジア人	76,825 (人)
バンケン	17,454
カオイダン	31,175
その他	28,196
ラオス人	75,065
ラオ人	22,971
バンナボ	112,390
ウボン	7,116
その他	3,465
山岳民族 (52,094)	
バンビナイ	33,189
北キャンプ	18,211
その他	694
ベトナム人	8,353
シキウ	7,150
その他	1,203
総合計	160,243
ボートピープル	7,646
ランドピープル	152,597

バナツニコム (第三国定住待ちの人達の一時収容施設)

- 日本語学校 ■千葉県 □谷沢一江※, 加島伸彦
5期生51名が元気に通っている。10月4日より、9月にインタビューを受けて内定した人たちの予備クラス(39名)を開始。全員とても熱心である。10月28日には、26名が日本定住のために発ったが、そのうち14名が本校の生徒。
9月より始めた日本紹介のオリエンテーションは好評で、特にスライドや16mmの映画などの視覚教材は有効なので、できるだけ多く取り入れたい。Japan Information Service より借用のフィルムがあり、英語のナレーションをクメール語、ラオス語にする作業に入った。
- 図書館活動 ■千葉県 □滝沢文男, 山崎敏光, ティアン,
クメール子供図書館では、月曜—スライド上映, 火曜—本の読み聞かせ, 水曜—子供サッカー教室, 木曜—紙工作, 金曜—民族舞踊ショーなどのイベントのサイクルが決まり、スムーズに回転している。
- スポーツ
14, 15日の2日間、サッカー大会を開いた。21日にバレーボール大会を開く。
- 民族舞踊
ラオダンス・クラスは人数が少なく、トランジットセンターから、人数の多いホールディングセンターの方へ移すことも考えている。クメールダンス・クラスは、10月1日にドラマとコメディのショーを開いた。コメディは相変わらず爆笑の渦だった。

タイ・カンボジア国境

(ノンブルー, タブリク, プノムチャット, コクタハン, 難民村での学校運営に対する教材, 物資の援助)

- 教育援助 ■西本願寺, WFP □ニール・リー※, 金子一弘, 竹内俊之,
ノンブルーの学校は、生徒数 553 名。新入生に、ノート, 鉛筆, スレイト等基礎的な教材を供与。雨期の間にいたんだ教室の修理のため、竹の柱や屋根をふくわらの要請があった。保健教育が進められ、配布した石けんは毎日使用されている。図書館が完成。プノムチャドでは、10月に砲撃があり、それを恐れて、出席率が悪化したため、教育委員会が校舎のまわりに遮蔽物を作った。コクタハンでは、教員研修コースを計画中。4つのキャンプについて寒さに備えて古着の配布を行う。

クロントゥーイ・スラム (バンコク市内のスラム)

- 電気工養成訓練所 ■一般寄付 □福村州馬, 高塚政生, ブラキッド, 小川ひとみ
- 図書館 ■神奈川県
- 学費援助 ■モラロジー

ホーキンス・ロード (シンガポール, ベトナム人キャンプ)

- 管理運営全般 ■UNHCR □マリ-マリティヌ・キャマル※
環境整備
公衆衛生

バンコク事務所

- 運営 ■裏千家, 西本願寺
□熊岡路矢※, 深津高子, 田川和子, 武田恵治, ポンピモン・チャイブーン, タマヌン
- 会計 上田晨子, 磯村美知子
- 総務 深谷範子, 吉川万里子, 海老原美子, 柴田友子, 木上伴子
- 編集 碓 知子, 岡崎律子

東京事務所

- 星野昌子※, 田島 誠, 荻野美智子, 他15名

パレスチナの人々

荻野美智子

10月下旬ヨーロッパからの帰途、シリアの首都ダマスカスのパレスチナ難民キャンプを訪ねた。そこで働く日本人医師信原孝子さんに面会できないかと考えたからだ。そこで、大量虐殺のあった西ベイルートのシャティーラキャンプから逃がれてきた家族の話の聞くことができた。

7人の子供の母親であるジハットさんは42歳。色黒の大柄な婦人である。学校へ行っていない4人の子供達が笑顔で迎えてくれた。以下はジハットさん一家がレバノンから脱出した時の模様である。

1982年9月14日(火)、レバノンの大統領候補であったバシール、ジェマイエル氏殺害。

9月15日(水)、キャンプ周辺のイスラエル軍の様子が普段と違うようで不安に感じ、長男の動くガザ病院へ移動し、夜を明かす。

9月16日(木)、朝からキリスト教右派のハダト軍が難民を虐殺しているという噂を耳にするが、デマだと思い一度帰宅する。しかし、近所の人々がハダト軍に銃殺されたと聞き大量虐殺の事実を知る。荷物をまとめ、再びガザ病院へ泊まる。

9月17日(金)、午後リヤカーに荷物を乗せ、子供に一枚ずつ毛布を持たせ、友人とその子供5人とともに裏道からキャンプを脱出。夜はサブラ地区の路上に寝る。物価が高く、食料も不足し、パンとバナナで飢えをしのごう。

9月18日(土)、マズラ通りのホテルのそばで寝る。(ガザ病院の医師と看護婦がスポーツセンターで大量虐殺される。この日になり、ようやくイスラエル軍が虐殺を止めにキャンプに入る。)

9月19日(日)、この日から3日間小学校で暮らす。石でカマドを作り、缶詰と配給物質で料理を作る。

その後ベイルートとシリアのダマスカスをつなぐ通称ダマスカス街道を3回タクシーを乗り継いでベッカー高原を越えた。普通なら車で約1時間の距離である。途中、レバノン軍、ファランジスト軍、イスラエル軍の関所にある。パレスチナ人



である事を示すヨルダン籍のパスポートを椅子の下に隠す。タクシーの運転手の家族ということで検問をくぐり抜ける。レバノンに住むイスラム教徒は右派、左派と分かれ複雑に対立している。話せばアクセントでパレスチナ人であることがわかるので、ひたすらコーランを唱えていた。イスラエル軍を避ける為まわり道をして、親戚のいるこのヤルムークキャンプにたどりついた。車代は1600リラ(日本円にして約80,000円)夫はPLOの兵士で、PLOのレバノン撤退後行方不明であったが先にダマスカスに来ており再会する。PLOのリフジ委員会から毛布を1人1枚ずつと、鍋、米、砂糖、油などの食料品の配給を受けた。家を失ったということで給与の9ヶ月分を前借りという形で支給された。育ち盛りの子供をかかえ、毎日のパンを買うのに精いっぱい、冬になればアラブとは言え、雪の降る地域での今後の生活の不安を訴えていた。(ジハットさんとの話は女医の信原さんの通訳で行なわれた。)

信原さんはベイルートで10年以上もパレスチナ難民への医療活動を続けていた。PLOの撤退に伴い、8月の末ダマスカスに移り現在このヤルムークキャンプの診療所で活動している。小柄な信原さんはドクトルサードと呼ばれ、アラビア語を話し、看護婦さんや患者さんからも信望が厚い。彼女の働く赤

三日月社の病院には、日本人は信原さん一人であるが、ソ連、ブルガリア、パキスタン、その他のアラブ諸国から多くの外国人医師がボランティアとしてパレスチナ人医師達と活動している。アラブ特有の白っぽい病院の壁には、街のいたるところで見かけるのだが、ゲリラ戦で殉死した戦士達を讃えて、肖像画が描かれている。

信原さんのいるヤルムークキャンプは、ダマスカス郊外南約10kmの人口20万人の町である。以前はこの地域もテントのキャンプであったが、難民たちが家を建設し始めてから、シリア人も移り住み今ではその人口の半数がシリア人である。そのため一般のアラブの町と大差がない。鉄条網に囲まれ、外出の認められないインドシナ難民キャンプとはずいぶん異なる。シリア政府情報局のハマティ氏にキャンプを案内してもらい、その様子を見た。彼自身、1948年にハイファから逃がれたパレスチナ人であった。

シリアの場合も、他のアラブ諸国同様パレスチナ人は、シリア人と同等の権利を有する。子供達の教育費は無料であり、医療費も国が負担している。就職も自由である。職に就き、貯えができると人々はテントやバラックの家を新しく建て直したり、町のアパートに移ったりしていく。もちろんシリア人と同様、シリア政府に税金を納めなければならない。ただしどのアラブ諸国でも、パレスチナ人の土地の所有は認められていない。まさにパレスチナ人は自分達の土地を持つことができない民なのである。

ジバッドさんの家族もこのダマスカスのキャンプにいつまでいられるのだろうかという思いがよぎる。パレスチナの人々に安住の地はないのであろうか。

赤三日月社の職員が言った。「我々はこれから長く辛い旅を続けなくてはいけない。」という言葉をおぼろげに覚えている。



ダマスカス郊外のパレスチナ難民キャンプ

ネパールの チベット難民

碓 正一郎

今年8月、私はネパールへ行き、カトマンズの西方150km、アンナプルナ峰のふもとのポカラにあるチベット難民のキャンプを訪れた。

チベット難民とは、ラマ教の宗主ダライラマと共に、1959年中国を後にしてインド・ネパールへ逃れた人々である。インドに85,000人、ネパールに15,000人がいるといわれる。(82,アメリカの難民委員会の調査による。)ブータンへ入った6,000人はそのまま定着しているという。

ポカラでは300人ほどのチベット人が、牛、馬を飼い、ジュウタンを織って生計を立てている。ラマ教の信仰を守り、祖国を想いながら、美しい自然の中でひっそりと暮らしている。

ここでたった1人の学校の先生、ロブサン・テンジンさんに会った。学校では年令別3クラスで50人ほどの子供が、チベット語、算数、年長のクラスでは英語を学んでいる。朝、子供達は外に集められまらず国歌なるものを歌い、次に「愛国者の歌」を歌う。「赤い中国は出て行け」というような内容であった。そのあと、ラマ教の仏典を唱え始める。私がロブサン先生と遅い朝飯を食べに行き、ゆっくり学校にもどってみると、子供達はまだ一生懸命仏典を唱えていた。それから授業が始まった。教室には電燈もなく、ノートもボロボロで勉強道具はみすぼらしいものだった。

子供たちは粗末な服装で、あまり体を洗わないようであった。皮膚病が多く顔や腹が腫れあがっている子供もいた。ネパールでは難民に限らず、病院も少なく設備も貧弱だ。しかし貧しさの中でも子供たちの目の輝きが、救いであった。



クrontゥーイの子供たち 何を食べているの？

タイの首都バンコク、年間200万人の観光客が訪れている。市内には大小数多くのホテルがあるが、ここでバイキング形式の料理のために調理された食事が、ほとんど手つかずのまま大量に捨てられるか豚のエサになっているという。

このことに注目したCCSDPT（タイ国における避難民救援連絡委員会）のタイ人スタッフ、ピンバボン女史からJVCに一つの提案がなされた。ムダに捨てられている料理の残りを集め、スラムの“食べられない”人々に提供したらどうかという内容であった。JVCはこの提案を実施するかどうかを検討するため、クrontゥーイの子供たちの食生活に関するアンケート調査を行なった。

子供たちの中には栄養失調児もいるが、学校生活には支障がないことがわかり、衛生面の管理や食糧の供給方法、人手の確保などの困難を考え合わせると、それだけの労力と資金をつぎ込むだけの有効性はないという結論に達したのである。結局、食糧の配給は実施されないことになった。

それにしてもクrontゥーイの子供たちはいったい何を食べているのだろうか。以下アンケート調査の内容を紹介してみたい。

〔調査項目〕

- ・身体状況 — 身長、体重（グラフ参照）

- ・食事、栄養状態 — 食事回数、内容、量、料理法
- ・小遣いの額と用途

〔対象〕

クrontゥーイ、パタナ共同体小学校第4学年の児童48名、年齢はスラムの就学状態を反映して9～13才と開きがある。

この調査は、栄養士の資格を持つJVCのボランティアと、パタナ共同体小学校のタイ人栄養士の協力により、1982年1月に実施された。

食事の回数 1日に3度食事をすると答えた子供は半数以下の47%、2度が41%で残りは不明、2度のうち朝食ぬきの子供が42%と多く、22%の子供は昼食を食べていない。昼には学校で給食が行なわれているが、給食費が払えないのだという。毎日夕食をとっているのは75%、いずれの場合も、食事の時間、回数が不規則であると考えられる。

朝食に何を食べているか

〔主食〕タイの主食は米だが、朝食に米のご飯を毎日食べると答えた子供は21%とずいぶん少ない。他には、めん類、トウモロコシ、イモなどを食べていると思われる。

〔タンパク質〕魚、鶏、豚などの肉やモツ、そして卵、牛乳など。牛乳を飲まない子が40%とめだつ。「毎日食べる」「時々食べる」子供を合わせても、魚で69%、鶏肉64%、豚肉52%にしかならない。

〔野菜・果物〕野菜は豆、きゅうり、もやし、かぼちゃ、パッカナー、パックブンなどを食べている。タイは果物が豊富なところで、バナナ、パイア、みかんなどを食べている。パックとは野菜のこと、名前が後につく。

味つけ — タイのおふくろの味

これらの肉、野菜類をどのような味つけで食べているかという質問で、一番多かったのが、ゲーン・ベット（辛いスープ）。ゲーン・ソム（酸味のあるスープ）、ゲーン・チュウ（うす味スープ）、ヤム・アハン（野菜のあえ物）、パッシュ（野菜いため）など。普段の食事は、野菜や肉の入ったスープをご飯にかけて食べる人が多い。とうがらしをきかせた辛い味が好まれる。

間食について

おやつを食べると答えた児童は女の子で半数、男の子の1/4。果物やお菓子、ジュースを小遣いで買って食べているようだ。小遣いの額は1バーツ（約11円）～5バーツ。スラム以外の子供たちは20～30バーツもらっているという。

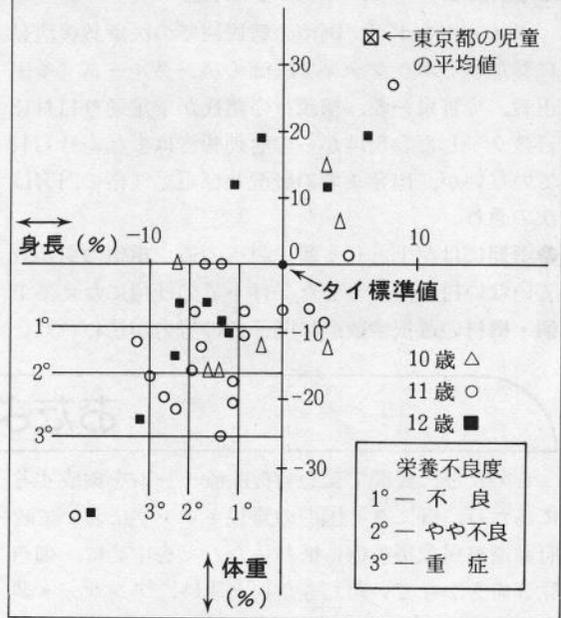
考察

アンケートの質問が必ずしも適当でなく、大ざっぱな数字しかとらえることができなかったが、傾向として動物性たんぱく質が不足がちで、食事の内容について、栄養面での配慮があまりなされていないように見うけられる。

身長と体重については、「タイ国児童・標準体重

クrontui・スラムの子供たちの 身長・体重の現状

— タイの子供の標準値を0(ゼロ)にしたとき —
参考資料 55年度東京都学校保健統計書



・身長と栄養不足の程度」の表にもとずいて、栄養状態を、ふつう以上、やや不良1°、不良2°、重症3°に分けてみた。標準値より体重が25%約7kg、身長が10%約12cmも下廻る「重症」の子供が、358人中20名(5.6%)いることがわかった。しかし彼らは健康な児童に交って普通の学校生活をおくっている。発育が盛んなこの年代の児童の栄養状態は、数値では計れないということ、専門家にも指摘された。

次に児童以外に栄養供給をする場合を考えてみた。対象としては、授乳婦があげられた。クrontuiにある診療所で聞いたところ、新生児の体重は3,000gとほぼ正常で生まれているが、出生後から体重は減少し、3ヶ月になってようやく出生時の体重を上回り始めるということである。母親たちは、正常分娩だと3～4日で診療所を退院し、早い時期に仕事を始めているという。不規則に仕事に出る彼女達を一堂に集めて栄養補給することは難しい。また、母乳を与えていない場合が多く、乳児の発育に意味を持たないことがわかった。

長い目で見てクrontuiの親や学校の先生たちがもっと、栄養や健康について知ることが必要であると感ずる。今後、栄養問題に関して、私たちにできることがあれが力になりたいと考えている。

子供たちの好きな料理ベスト5

- クイティオ・ナム
(米から作る麺のスープ仕立て)
- クイティオ・ランナー
(クイティオのあんかけ)
- クウェ・チャップ (豚モツ入りのワンタン)
- カーオ・ゲーン・ガイ (チキン・カレー)
- グラポー・プラー (魚キモ入りのスープ)

●医療チームバンコク到着

タイ・カンボジア国境の難民村での医療救援活動に参加するボランティア医師の第一グループ（多田正毅、今野泉一郎、柳茂行の諸氏が予定通り11月13日渡タイした。現地からの活動報告はまだ寄せられていないが、出発までの概況及び電話連絡の内容は次の通り。

●雨期には泥土と化す難民村への道、電気の引かれていない村々、こうした条件下での使用にたえる車輛・機材の選択や改造に関係者の努力が払われた。

発電機の使用を考慮に入れて作られていない小型レントゲン撮影機が発電機との組み合わせで、かなり良い結果を得た時の関係者の喜びは一しおであった。日航のご厚意でこの機材は半額で輸送された。

●医療プロジェクトのための募金は、現在までで約700万円。内400万円は青年会議所平和基金の果実残りは個人又は病院からお寄せいただいたもの。

●第二期の活動として、レントゲン撮影以外の医療活動の可能性が国際赤十字との話し合いで進行中、予想より早期の実現が見込まれている。

●上記医療チームのメンバーはバンコク到着後、JVCのタイ人ボランティアから日常生活に必要なタイ語のレッスンを受け、生活様式や食事等現地情況に馴れようと努力を重ねておられるとのこと。

おたよりから

このたび、民間で緊急救援医療チームを編成するにあたり、既にタイ国内の難民キャンプにおいて政府派遣難民救援医療に携わった方々を中心に、御意見等をきかせていただきたいと思い、アンケート調査を実施しました。このアンケートは今後世界各地へ緊急救援医療活動を拡げて行くための参考資料としたいとも思っておりますので、皆様に御参加の意志があるかどうか聞かせていただきました。320通のうち100通程の回答をいただきました。中に次のようなお手紙がありましたので紹介させていただきます。

「昨年3月31日、平方は膀胱癌のため国立がんセンターで息を引き取りました。タイから帰国して体力を落としていた時に発病したため、病気の進行を喰い止めることが出来ませんでした。カンボジア人のことを、最後まで気にかけていました。マイルートキャンプにいたブー・ケアン（20才）を私たちの所に引き取ることにして、手続をしたのですが、日本政府の対応が遅いのにしびれを切らした彼は、日本から調査団が行った時は、すでにキャンプを出ていま

した。行先は西ドイツだろうとのことでした。

消息が分かりませんが、今も私たちの心にひっかかっている、元気でがんばってほしいと祈っております。

平方も次に行く時は政府派遣でなく、もっと自由な立場で奉仕して来たいと申ししておりました。今回の御計画を聞きましたらどんなに喜んで参加申込をしたことかと思われまます。直接にはお役に立てなくなりました。残念でございます。

私も、現地で倒れた夫を迎えにサケオまで行き、サケオ・キャンプにも足を踏み入れました。小さな赤ちゃんを膝に子守歌を歌ったり、女の子とあやとりをした思い出は忘れることが出来ません。

JVCの御活躍が祝され、十分な動きがなされますよう心からお祈り申し上げます。難民村のことを気にかけていた平方の心を皆様が生かして下さいませ。長々と記しました失礼をお許し下さいませ。」

（第1次政府派遣医療団に参加された、故平方義信医師の奥様のお手紙より）

ファイnder

表紙写真 UNHCR提供 撮影 R. Burrows

子供たちは、親たちが語学や技能訓練などの講習会や、食料配給に出かけている間、Day-care center（託児所）で時間を過ごす。

カオイダン・キャンプにて

編集後記

タイ国内でキャンプの統廃合が進められている中で、カンボジアをめぐる情勢が今後どのように動いていくのか、まだ予断を許さない。日本国内では、一時滞在難民の施設が満員となり、日本への定住が勧められている一方で、「流民」には強制退去命令が出された。'83年もまだ、難民たちの苦難は続く。

会 計 報 告

諸経費の内訳

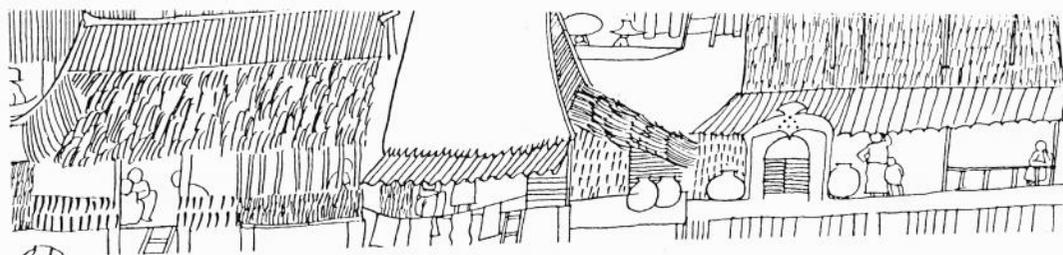
10月分会計報告

単位 パーツ

キャンプ名	プロジェクトの内容	金額
バナニコム	日本語学校教育レクレーション	45,098
クロントゥーイ	図書購入, 図書館, 一般会計, スポンサーシップ	23,061 ²⁰
ウボン	織物学校, 図書館, 自動車修理学校, 石けん学校	37,141
国境	教育関係品輸送	44,725
カオイダン	技術学校	192,904 ⁵⁰
給水プロジェクト	井戸掘り	125,841 ⁵⁰
農村プロジェクト	農村調査	8,175 ⁷⁵
カンボジア	井戸掘り	8,610
BKK ボランティアホーム	家賃及び経費	5,792 ⁵⁰
オフィス	諸経費	140,446 ⁷⁵
合計		631,796 ²⁰

内訳	収入の部	支出の部	残高
前月繰越金			5,609,074 ²²
寄付送金	524,006 ⁹⁰		
受取利息	483 ⁰¹		
雑収入	230 ⁰⁸		
仮払金	186,660 ³⁶		
仮払金		(1 ⁰⁰)	
諸経費		631,796 ²⁰	
合計	711,380 ³⁵	631,796 ²⁰	5,688,658 ³⁷
合計	(711,380 ³⁵)	(631,797 ²⁰)	5,688,658 ³⁷

10月末日現金及び預金残高 5,688,658³⁷



JVCの活動は、みなさまからの募金で支えられています

難民救援活動をより充実したものにするため、以下の募金を受け付けています。ご協力をお願いいたします。

- **インドシナ難民救援募金** (10月小計 16,456円)
東京事務所を窓口にしてバンコクに送られ、各難民キャンプでのプロジェクト費にあてられています。
自動車整備学校への募金 (10月小計 192,545円)
- **ボランティア募金** (10月小計 1,000円)
現地で活動しているボランティアのための栄養および健康管理費にあてられます。
- **クロントゥーイ・スラム募金** (10月小計 11,970円)
バンコク、クロントゥーイ・スラム内の図書館および電気工養成訓練所の運営費などにあてられます。
- **デック・スラム奨学金** (スラム児童奨学金)
バンコク市内スラムの児童への奨学金などの学費援助一口いくらでも可。(目標総額5千万円)

●レバノン難民救援募金

JVCは、レバノンのパレスチナ難民や戦乱に巻き込まれたレバノンの人々に対し、何らかの形で援助ができないか検討中です。JVC独自の活動、又は現地で活動している団体を通じて、医療関係の援助に充てる予定です。

送金方法

住所、氏名、募金種目名を必ず明記の上、下記の郵便口座にお振り込みください。

口座番号：東京 9-27495

加入者名：JVC 東京事務所

※ 会計の都合上、「Trial & Error」の購読申し込みとは別にご送金くださるようお願いいたします。

JVCとは

Japanese Volunteer Center は1980年2月、タイの首都バンコクで設立された民間救援団体です。

1979年の暮れのインドシナ難民の大量流出を、きっかけに、日本から救援に駆けつけた若者と、現地タイですでに活動を始めていた日本人たちが一体となり、現在の組織の原形ができてきました。

当初はタイ・カンボジア国境への物資輸送など、欧米の民間救援団体を補佐するものでしたが、現在は日本から寄せられる寄付金と各支援団体の援助金により、独自のプロジェクトを展開しています。

JVCは、難民、そしてそれと同様の窮境にある人々に、できる限りの援助を継続的に行うことを目指しています。常時50人近くの各国のボランティアが、タイ国内のラオス・ベトナム・カンボジア難民キャンプや、バンコクのスラム街において活動を続けています。

また今年に入ってから、タイのみならず、カンボジア国内での井戸掘りやシンガポールでの活動を始めました。

東京事務所は、こうした活動の情報、人材、資金を現地と結ぶ日本の窓口として機能しています。



発行所 JVC東京事務所
 〒166 東京都杉並区阿佐谷南
 1-1-5 三笠ビル3F
最寄駅 丸の内線新高円寺駅
TEL 03(316)3253

バンコク事務所 *Japanese Volunteer Center*
 67 South Sathorn Road
 Bangkok, Thailand
TEL 286-4857

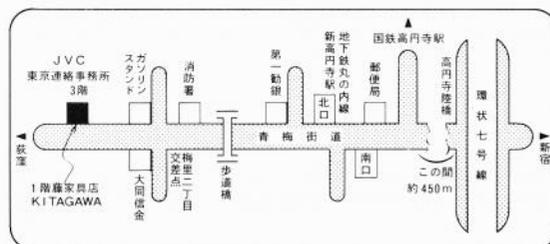
京都連絡事務所 京都市上京区寺町今出川角
 光月堂2F TEL075(256)1382
 〈海外ボランティア情報センター内〉

昭和57年12月20日発行
 毎月20日発行

発行人 星野昌子
編集人 本橋栄
裏表紙撮影 UNHCR提供
表裏表紙撮影 加藤明彦
印刷所 (株)ベスト・プリンティング

「Trial & Error」年間購読申し込み方法

一般購読者 1口 3,000円 (1冊送付)
 賛助購読者 1口 10,000円 (4冊送付)
 郵便口座番号 東京3-54186
 加入者名 JVC東京事務所
 住所、氏名、購読開始月をお書き添え下さい。



定価 1部300円